



校長室だより

令和8年度

10月2日

NO. 21

みんなが自分で考えられる、自分で考えが言える「学びの場」を…。

「居場所」は、自らのネガティブな経験や本音を安心して互いに自由に発言し、認めあえる場所なのである。」
『一人前と戦後社会』（岩波書店） 沼尻晃伸著



岡崎大学の蜂須賀先生を迎えて、研究授業が行われました。6年生の子が授業を頑張りました。

今年 は長雨続きでしたが、秦梨の栗はいつになく豊作でした。よくサルが学校を覗きに来る裏山からこぼれ落ちた、栗のいがが道に溢れます。落ちてもお固く中の栗の実を守り続けようとするいがの姿は、わが子を大切に育てる家族の姿のようにも見えました。栗は隔年で豊作とそうでない年が来ると言われますが、たわなに実った今年の栗は、秋を感じさせてくれます。

九月二十八日には、岡崎大学教授の蜂須賀先生に来ていただき、六年生の算数の授業を見ていただきました。いつもの授業と違った皆さんの先生に囲まれて、子供たちは緊張していましたが、難しい「比」の問題に、真剣に取り組みました。こうした研究授業に向けて、鈴木先生も様々な場面を考えて、準備をします。線分図や様々な解き方など、授業の核になるところを押さえ、分からない子には、しっかりと支援に入ります。子供たちもチームで見合ったり聞きあったりして、解決を図ります。こういう時こそ、日頃の授業への姿勢が表れます。

国の方針でもある「主体的対話的で深い学び」の中では、一人一人が自分の考えをもつことが大事にされます。そしてそこでは正しいか正しくないかよりも、自分で考えて自分の考えを持つこと、そしてそれを発信できることが求められます。それは、「分からない」ときや「できない」ときも同じです。授業後の研修会で蜂須賀先生も、分からないときは、「教えて」と言える環境が大事だとも言われました。

六年生の教室を覗くと、チームで様々な問題を解決しようとする姿が多く見られます。どんなことでもみんなで言い合える、話し合える、そんな環境が、子供にとってよい「居場所」であり、誰もが輝ける環境であると考えます。

- ・本日の田植えにご参加いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。子供たちは虫よけ（ダニ除け）スプレーをして活動をしていましたが、もし、心配なことがございましたらご連絡ください。
- ・10月3日には、PTAの資源回収が行われます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。また、10日には、本校体育館で「河合 2050」による「さわやかコンサート」が行われます。日頃お目にかかることのない様々な舞台を見ることができます。お時間のある方は、お越しください。